

年度 2009 学期 前期	曜日・校時 金・4	必修選択 選択	単位数 2
授業科目/(英語名)	平和講座 On the Peace		
対象年次 1・2年次	講義形態 講義	教室	
対象学生(クラス等) 全学部	科目分類 総合科学科目		
担当教員(科目責任者) / Eメールアドレス/研究室/TEL/オフィスアワー 担当教員: 安部俊二 / Eメールアドレス: abe-s@nagasaki-u.ac.jp / 研究室: 教育学部本館6階 617 研究室 / TEL: (095)819-2309 / オフィスアワー: 水曜15時から16時まで			
担当教員(オムニバス科目等)	舟越耿一、安部俊二、藤澤秀雄、岩松繁俊、関口達夫 NBC 記者、篠崎正人		
<p>授業のねらい</p> <p>この文教キャンパスは三菱兵器製作所大橋工場の跡地であり、ここでは学徒動員令や女子挺身勤労令などによって動員された若者たちが航空機用魚雷の生産に従事中、原爆によって、その多くが爆死しました。</p> <p>敗戦後、日本は「人間相互の関係を支配する崇高な理想を自覚し、国家再建の基礎を人類普遍の原理に求めて戦争を放棄し、平和を愛する諸国民の公正と信義に信頼して安全と生存を保持しよう」と決意しました。</p> <p>本講座は、その決意を受け継ぎ、平和を愛し探究心に富む学生諸君の思索と生活の原点に資すべく基礎的資料と基本的な分析論理を提供しようとするものである。</p> <p>授業方法</p> <p>各授業日ごとに、担当の講師が講義に必要なプリントを用意し、授業を行う。講師によってはビデオなどを利用する。</p> <p>授業到達目標</p> <p>戦争の実態についての認識を深め、世界の情勢を深く理解し、基本的人権を尊重して自由と平和を愛する文化国家の建設に努める態度を身につける。</p>			
<p>授業内容(概要)</p> <p>授業内容は多岐にわたるので、各講師がテーマを掲げて講義する。</p> <p>講義内容</p> <p>第1回(4月10日) 舟越耿一「ナガサキから平和学する」</p> <p>第2回(4月17日) 藤澤秀雄「講義目的と方法、レポート作成の説明」</p> <p>第3回(4月24日) 藤澤秀雄「自伝的昭和史(1)小学生から見た日本の戦争」</p> <p>第4回(5月1日) 藤澤秀雄「自伝的昭和史(2)戦争とは、戦場とは、そこで何が行われたか」</p> <p>第5回(5月8日) 藤澤秀雄「自伝的昭和史(3)戦時におけるアメリカ合衆国の戦争」</p> <p>第6回(5月15日) 藤澤秀雄「冷戦終結後の戦争—イラク戦争を中心に—」</p> <p>第7回(5月22日) 関口達夫 NBC 記者「長崎原爆を報道する」</p> <p>第8回(5月29日) 岩松繁俊「①私の原爆被爆体験と多数の内外被爆者の惨状 ②被爆国日本の加害・被害の二重構造の論理」</p> <p>第9回(6月5日) 岩松繁俊「③真実は民衆によって語られる」</p> <p>第10回(6月12日) 安部俊二「十五年戦争—100年遅れのアヘン戦争として—(1)」</p> <p>第11回(6月19日) 安部俊二「 同 (2)」</p> <p>第12回(6月26日) 舟越耿一「報復の連鎖を断つことばを求めて」</p> <p>第13回(7月3日) 舟越耿一「どこからどこへ、日本の平和主義」</p> <p>第14回(7月10日) 篠崎正人「有事体制と長崎・佐世保 (1)」</p> <p>第15回(7月17日) 篠崎正人「 同 (2)」</p> <p>* 特別レポート作成に関する問合せは、藤澤秀雄 (Tel.095-882-5954) まで。</p>			
キーワード	各講師が掲げたテーマに記述されている言葉の他には、防塁、防空頭巾、高射砲、焼夷弾、米国の爆撃機 (B17~B52)、枯葉剤、ナパーム弾、特高、特攻、特殊潜航艇、戦艦、航空母艦、原子力潜水艦、イーギス艦、トマホーク、ICBM、軍人、軍神、二階級特進、靖国神社、従軍看護婦、慰安婦、慰問袋、千人針、劣化ウラン弾		
教科書・教材・参考書	特定の教科書は用いないが、プリント資料を適宜配布し、またスライド・ビデオなどを利用して講義の理解を深めるのに役立つ。最初の講義日に参考図書リストを配布する。		
成績評価の方法・基準等	出席を欠かさず受講することを重視する立場から、課題レポート(70%)、講義への取り組みの積極さ、および担当講師が課したレポートの成績(30%)で評価する。		
受講要件(履修条件)			
本科目の位置づけ / 学習・教育目標			
備考(準備学習等)			